

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.137

2012年10月29日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

「第35回兵教組平和教育実践交流集会」開催

「第35回兵教組平和教育実践交流集会」を福崎町において開催し、県内各地より約80人が参加しました。

(兵教組ホームページにも記載)

午前、町内の中学校にて、老人会の方々から戦中・戦後の体験を聞く授業を参観しました。

午後からは、福崎町商工会館にて、実践交流集会をおこないました。主催者からの基調提案に続いて、神崎支部から実践報告を受けました。そして、元平和教育部会研究所員の高見祥一さん・本田芳孝さんから「多面的に戦争をとらえる視点」についての講話後、各地区での交流の場をもちました。

戦争体験を次の世代へ語り継ぎ、史実と真実の探求をとおして平和を守る教育をすすめていくことの大切さを再確認する良い機会となりました。



参加者の感想

- ・ 中学校のデリケートなこの時期に戦争体験を聞く学習をすることに非常に意味があるように思う。自分自身の人生とつなげて考えることができると思うからだ。タイムリミットの話はもちろん、深め方について課題もあるだろうが続けることに大きな意味があると思う。高見先生からの「多面的に戦争をとらえる」という話から、戦争に限らず色々なことを多面的にとらえられる子どもたちを育てられたらと思った。
- ・ 修学旅行で広島・長崎・沖縄へ・・・それを平和教育・平和学習として済ませてしまっているとすれば考えを改めなければならない。まず、身近なところからスポットをあて、つながりを感じながら学習を深めていけるようとりくんでいきたい。
- ・ 実践交流は、今まで知らなかったことをたくさん知ることができたので非常に有意義だった。ともすれば教科書や資料のみの学習になってしまいがちだが、様々な見方で資料を見ることで、子どもの心に響く実践となっていくことがわかった。そのためには資料分析をはじめ教員側の研修が必要だと思った。
- ・ これまでの自分自身のとりくみができていなかったことは明白で、この会に参加し多くの事を学べたように思う。本日話していただいたことや資料をもとに少しでも次代の子どもたちに還元できるようにとりくんでいきたいと思った。
- ・ 平和教育を色々な面から教える必要があることがよくわかった。加害・被害の両面から今後子どもたちに教え、一緒に考えていくことがこれからの日本や世界の平和につながっていくと思う。